

# 世界トップレベルの研究・治療で 北陸の整形外科をリード



金沢大学医学系  
整形外科学教授

でむら さとる  
**出村 諭氏**

1995年3月 金沢大学医学部医学科卒業  
2002年4月 埼玉医科大学附属病院整形外科助手  
2006年4月 金沢大学附属病院整形外科助手(助教)  
2010年7月 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校  
クリニカルフェロー  
2011年4月 金沢大学附属病院整形外科講師

2019年2月 金沢大学附属病院  
脊椎・脊髄外科長(病院臨床教授)  
2019年6月 金沢大学附属病院  
リハビリテーション部准教授  
2023年11月 金沢大学医学系整形外科学教授

令和5年11月に金沢大学医学系整形外科学教授に就任した出村諭氏。開講70年の歴史を持ち、数々のハイレベルな研究や治療法で世界的な知名度を誇る教室を受け継ぐにあたり、その抱負と今後のビジョンについて伺いました。

### 世界的な先進治療を 生み出す系譜

整形外科は、頭と体の中の内臓以外、ほぼ全てを扱う守備範囲の広い科です。その領域は、スポーツ障害や外傷骨折、関節外科、小児整形、リウマチ外科、骨の腫瘍など多岐にわたります。外科と聞いてすぐに連想されるケガや骨折も、スポーツによるものから加齢性の骨粗しょう症が原因のものまで幅広く、関節外科も下肢(股・膝・足)、肩、手といった疾患の部位によって専門が異なります。それらを網羅するスペシャリストを揃え、北陸の医療を担うのが大学病院です。

金沢大学整形外科は北陸・三県の基幹病院を中心に60以上の関連病院と連携しており、全国有数の整

形外科学教室のひとつです。そのネットワークを最大限に生かし、情報共有や機能分担が円滑にできるよう、風通しのよい環境づくりに努めたいと考えています。

私が専門とするのは、脊椎腫瘍(がんの脊椎転移)や脊柱側弯症、脊柱管狭窄症などを扱う脊椎・脊髄外科です。本教室は1953年の開講以来、数々の業績を残してきましたが、中でも注目すべき治療法を確立したのが、骨腫瘍の分野です。

第三代富田勝郎教授は、脊髄の損傷をひきおこすことなく腫瘍を摘出する「腫瘍脊椎骨全摘術(TES)」を開発し、当教室は骨腫瘍治療で世界トップレベルへと躍進しました。さらに第四代土屋弘行教授がオリジナリティーの高い治療法を推し進め、骨腫瘍を凍結して死滅

させる「凍結治療」による骨再建術などで、再生医療の領域へと踏み出しています。こうした伝統を受け継ぎ、今後も最先端の研究に邁進していく所存です。

### 研究も臨床も 常に「前向き」がモットー

目下取り組んでいるテーマは三つあり、一つめは前出の「凍結治療」を改良し、高圧処理によって骨腫瘍を死滅させる技術の開発です。加熱や冷却、放射線以外の手段で腫瘍以外の骨のダメージを抑える方法で、京都大学と共同研究を進めています。

二つめはこれまで不明だった「側弯症」の発症原因についての基礎研究。遺伝的要因やたんぱく質の関与など、着実に原因解明へと近づいています。三つめは、レントゲンによる子どもへの放射線の負担を減らす対策の推進です。整形外科ではレントゲンを頻繁に利用しますが、成長期の子どもは放射線の影響を受けやすい

### 腫瘍切除骨を脊柱再建に再利用



液体窒素で骨のがんを死滅させる「凍結治療」。処理された骨で脊柱を再建することができる。現在は、液体窒素にかわる新たな高圧処理骨の基礎研究をすすめている。

ため、放射線部などと連携して、放射線量を低く抑えて画像を維持する方法を模索しています。整形外科の疾患は治療後に元気に治っていく患者さんが多く、医局も病棟も非常に雰囲気が出るのが特徴です。今後も「明るく楽しく、元気よく風通しのよい教室運営」をモットーとして、患者さんが希望を持てる、最後の砦として最良の医療を提供していきたいと思えます。